

* 記念すべき「ニュースいのち No. 200」は臨時号で、「Stop! ザ・働き過ぎ!! 第20回働き方を見直す京都集会」の特集号です。

9月28日、ラポール京都（京都労働者総合会館）の会議室で、「第20回“Stop! ザ・働き過ぎ!!”働き方を見直す京都集会」が開催されました。同集会の主催は、京都総評及び加盟単産、自由法曹団京都支部、京都民医連、いの健京都センターなどで作る同集会実行委員会でした。参加者は、会場に48人、オンラインで15人の合計63人でした。同集会の司会進行は、京都総評女性部の海藤巳希子事務局長（京都総評副議長、京都府職労連）が行いました。



I 梶川憲実行委員長（京都総評議長）の開会あいさつ



梶川実行委員長は、今回の「働き方見直し集会」が20回目の節目となる集会となることから、この間開催された集会をふりかえってあいさつをしました。「第1回集会は2005年開催で、長時間労働、働き過ぎを見直すということで、職場の実態を持ち寄って開催した。ILOの提唱する“21世紀の労働者の働き方・働かせ方”の目標＝ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）について、ILO駐日事務所代表に講演をしていただき、その年に起きたJR福知山線脱線事故の教訓についても学んだ。」その後、過労死防止法制定のとり組み、アスベスト被害の補償と再発防止をめざすた

たかい、戦争法反対のたたかい、コロナ禍のたたかいなどもとどりいれながら、この間の集会を簡単に振り返りました。

そして今年の集会は、1995年の「新時代の『日本の経営』」から30年、ジェンダーの視点から振り返り、当面する労基法改悪などを許さず、人間らしく働ける職場を創っていく闘いについて学習・交流していくことを、グループトークへの積極的な参加を含め、呼びかけました。



II 記念講演「政府・財界の描く働き方・働かせ方の将来像を斬る！～ジェンダー視点からの考察」（竹信三恵子さん、ジャーナリスト・和光大学名誉教授）

今年の「働き方見直し京都集会」の記念講演は、ジャーナリストで和光大学名誉教授の竹信三恵子さんが、「政府・財界の描く働き方・働かせ方の将来像を斬る！～ジェンダー視点からの考察」というテーマで行いました。



竹信さんは、「日本の労働者保護転換の主な節目」として、1995年の日経連「新時代の日本的経営」とともに、1985年の「労働者派遣法の成立」を挙げました。そして「新時代の日本的経営」と「性別役割分業」が密接な関係にあったこと、「企業中心戦略と女性の壁」ということで、2012年からの第2次安倍政権の下での「3本の矢」の「成長戦略」として「女性活躍政策」があったこと、女性が輝く＝“Shine”が「死ね」と読めることを紹介し、「性差別を放置した女性の労働力化は最強の賃下げ装置」となることを喝破しました。また、「男性による生活安定」は女性の低賃金の口実となっていること、女性＝非正規＝低賃金について、「差別は最強で最悪の賃下げ装置」となっていること、

「無償のケアを抱える女性は最強の『産業予備軍』『含み資産』となっていて、財界はこれを手離さない政策」をとっていることを告発しました。そして、安倍「働き方改革関連法」、「新時代研報告」、「労基研報告書」などを批判し、このままでは人手不足はますます亢進すると警鐘乱打し、「女性が働きやすければ、男性も働きやすい」という原点からの「労働基準の再構築こそが不可欠」と訴えました。



Ⅲ 基調報告（京都総評・柳生剛志事務局長）



京都総評の柳生剛志事務局長が集会の基調報告を行いました。柳生事務局長は、まず、本集会のスローガン「ジェンダーの視点で働き方を見直す～新時代の日本的経営から30年、財界が狙う働かせ方に抗して」を紹介し、1995年の日経連「新時代の日本的経営」から30年を経て、日本の労働者の働き方＝働き方はどうなったのかを解明（＝“失われた30年”をもたらした非正規労働者の急増と労働法制の規制緩和）しました。そして、政府・財界が狙う今後の「働かせ方改革」についてばく露・告発しました。さいごに、当面するたたかひの重点課題について、①最賃闘争のいっそうの強化・前進・年金・医療・介護などの社会保障機能の再生・回復、②長時間・過密労働の改善、ハラスメントの一扫、③男女賃金格差の解消、④非正規労働者の賃金・労働条件の抜本的な改善、雇用の安定と同一労働同一賃金・均等待遇原則の実現、⑤プラットフォーム労働者のディーセントワークの実現、労働基準法のデロゲーションの阻止、⑥労働組合運動のバージョンアップ＝組織の拡大・強化の実現を強調しました。

Ⅳ グループトーク

記念講演と基調報告を受けて、グループトークを実施しました。ラポール京都の5つの会議室で5グループ、オンラインで2グループ、合計7グループに分かれてグループトークをしました。グループトークでは、最初は自己紹介と講演・基調報告の感想を出し合い、①職場の要求、②ハラスメント、③男女差別・ジェンダー平等・非正規問題のそれぞれどれかをテーマにして、お菓子やお茶も用意して楽しく真剣に話し合いを行いました。





V 全体集会・閉会あいさつ

グループトーク終了後、全体集会を行い、各グループからグループトークの報告を各1分で受け、竹信先生から講評とコメントをいただきました。

集会の閉会あいさつを、いの健康センターの岩橋事務局長が行い、集会を終了しました。



アスベスト京都の会第12回総会

- 開催日時・場所：2025年10月7日（火）午後6時30分～
ラボール京都（京都労働者総合会館）四階・第12会議室
- 記念講演：①「建設アスベスト訴訟の到達点と展望(仮)」
(清水謙一氏、全国建設アスベスト訴訟
全国連絡会事務局長)
- ②「アスベストの飛散・ばく露防止(仮)」
(伊藤泰司氏、大阪アスベスト対策センタ
ー幹事)



メンタルサポート京都公開講座

- 開催日時・場所：2025年11月15日（土）午後1時30分～4時30分
ラボール京都（京都労働者総合会館）四階・第8会議室
- 主な内容：問題提起（京都職対連・芝井公事務局長）
講演「心の病からの社会復帰(仮)」
(大阪職対連・藤野ゆき事務局長)
- 資料代：一般1千円、特別・賛助会員5百円
- 申し込み：メンタルサポート京都まで
(Tel075-754-8821, E-mail:info@mental-s.org)



過労死防止シンポジウム（京都会場）

- 開催日時・場所：11月21日（金）午後1時30分～午後4時20分
池坊短期大学・洗心館地下1階「こころホール」
- 主な内容：基調講演「物流危機とドライバーの長時間労働ー持続可能な社会への
転換に向けて」（首藤若菜立教大学経済学部教授）／京都労働局から
の報告／過労死家族からの訴え
- 主催：厚生労働省・京都労働局、協力：過労死防止京都連絡会
- 参加申込み：「過労死等防止対策推進シンポジウム」
のホームページから

